

【令和7年度 国語科授業改善推進プラン】

(1) 国語科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・日常生活や公の場で、状況や相手を思いながら正しい言語や文字を適切に操ることができる。
- ・授業で学んだ基礎的な知識を生かし、言葉や文字で的確に表現し伝え、発表することができる。
- ・分野や文章の種類によって異なるねらいを理解し、豊かな言語表現を用いて書くことができる。

(2) 学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・チャイム前着席の徹底ができているため、学習のスタートをスムーズに行うことができる。 ・授業態度が意欲的で発言や挙手も多く、集中して取り組めている。 ・ノート作りは、様々な考えや意見のための補助になるようにできている。どのようなやりとりを行い、何を考えたのかということを、各自で工夫している様子が見られる。 ・分かりやすく説明するために、情報を整理し順序立てた構成を考え書くことができている。	・授業態度もとても良い状態を保ち、集中して取り組んでいる。 ・ノート作りは、様々な考えや意見のための補助になるようにできている。どのようなやりとりを行い、何を考えたのかということを、各自で工夫している様子が見られる。 ・授業を通して、継続して新しい言葉に触れる機会をつくることができている。 ・聞き手を意識した発表、集中して聴写することができている。	・チャイム前着席をして、各自が小プリントに取り組むことができるため、その後の授業もスムーズに行うことができている。 ・ノート作りは、様々な考えや意見のための補助になるようにできている。どのようなやりとりを行い、何を考えたのかということを、丁寧に記録に残すことができている。 ・授業や言葉ノートを通して、継続して新しい言葉に触れる機会をつくることができている。 ・聞き手を意識した発表、集中して聴写することができている。
学力調査結果	< 3 年の全国学力調査について > 全国の正答率を基準に見ると、本校の正答率は全国の正答率より、2.9ポイント高い。「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国で4ポイント、都で1.6ポイント上回り語彙力が高いことがうかがえる。それに関連し、「読むこと」の項目の正答が全国で2.1ポイント高く、「書くこと」は、全国で4.5ポイント高い。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国や都に比べ低いことから、文字に対する認識を改めて振り返り、明確にとらえることが課題である。		
指導上の課題	・指示や、発問を理解することや、学習課題への取りかかりに時間を要する生徒や、提出物に改善の余地が多くある生徒への声かけを的確・丁寧に行う。 ・授業のねらいや流れ、振り返り等の掲示を、分かりやすく簡潔にする。	・机間指導をして生徒の状況を掴み、テンポよく進める。 ・日本語の良さを実感させ、伝えられるよう指導する。 ・授業のねらいや流れ、振り返り等の掲示を、分かりやすく簡潔にする。	・ノート作りは、学んだことを整理し直すことができているため、振り返って活用を図れるようにすることが課題である。 ・授業のねらいや流れ、振り返り等の掲示を、分かりやすく簡潔にする。

(3) 改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	〈授業〉 ・ 始業チャイム直前の、漢字の書き取りを継続的に取り組むことにより、学習のスタートをスムーズに行えるようにする。また、単元ごとに振り返りを徹底し、漢字の力を付ける。 ・ 考えながら読む習慣を付けて読む力を伸ばす。 〈家庭学習〉 ・ 漢字練習、ワーク、ワークシート、音読、ノート、天声人語	〈授業〉 ・ 始業チャイム直前の、漢字の書き取りを継続的に取り組むことにより、学習のスタートをスムーズに行えるようにする。 ・ 毎時と単元ごとの振り返りを徹底し、学習理解の定着を図る。 ・ 考えながら読む習慣を付けて読む力を伸ばす。 〈家庭学習〉 ・ 漢字練習、ワーク、ワークシート、音読、ノート、天声人語	〈授業〉 ・ 受験を意識し、始業チャイム直前に、漢字の読み書きの小プリントに継続的に取り組む。また、単元ごとに振り返りを徹底し、漢字の力を付ける。 ・ 自分の考えを進んで伝えるために、教材と生活を関連させ、動機付けを行う。 ・ 「天声人語」プリント課題を定期的に取り組み、語彙を豊かにし、考えながら読む習慣を付けて読む力を伸ばす。 〈家庭学習〉 ・ 漢字練習、ワーク ・ 音読 ・ ノート、天声人語
指導面	・ 各単元の目標を、授業のはじめに明確に示す。 ・ 発表の場や話し合い活動を定期的に設け、一人一人の学びを深めていく。 ・ 机間指導を頻繁にして生徒の状況をつかむ。 ・ 毎時と単元ごとの振り返りを徹底し、学習理解の定着を図る。	・ 各単元の目標を、授業のはじめに明確に示す。 ・ 発表の場や話し合い活動を定期的に設け、一人一人の学びを深めていく。 ・ 机間指導を頻繁にして生徒の状況をつかむ。 ・ 毎時と単元ごとの振り返りを徹底し、学習理解の定着を図る。	・ 各単元の目標を、授業のはじめに明確に示す。 ・ 短く具体的な指示を出すことで、学習内容を明確に伝える。 ・ 学習課題の明確な設定と発問を工夫する。 ・ 毎時と単元ごとの振り返りをを行い、学習理解の定着を図る。 ・ 発表の場や話し合い活動を定期的に設け、一人一人の学びを深めていく。

(4) 評価

- ① 授業に取り組む様子
- ② 漢字ノート、ワーク、ノート（2 段目、3 段目）
- ③ 朗読や音読
- ④ 家庭学習の様子
- ⑤ 定期テスト観点別学習状況による評価
- ⑥ 国及び都の学力調査結果
- ⑦ 書写に関する課題・ワークシート
- ⑧ 知識事項に関する小テスト
- ⑨ 古典分野における音読・暗唱テスト
- ⑩ 授業アンケート結果による達成度評価